

令和 2 年度

アセスメント研修
(アセスメントの基本 編)

特定非営利活動法人

とちぎケアマネジャー協会

本日の研修からわかる事

- 1、生活ニーズの定義。
- 2、アセスメントプロセスの基本。
- 3、生活ニーズを把握するための具体的な流れ

．．．．以下はステップアップ講座．．．．

- 4、生活ニーズとしての根拠づけの流れがわかります。
- 5、活動目標の提案の方法がわかります。
- 6、生活ニーズを基にしたケアプランの作成がわかります。

1、日本介護支援専門員協会 全国大会福岡大会での香川県の発表から

ニーズが導き出せない、思いつかない 漠然 目標設定につながらない

2、ニーズの定義について

3、ニーズの捉え方についての混乱があります。

①のニーズを「～したい」と表記することについて

菊地は、ポジティブ・ケアプランのニーズの捉え方は従来の学説とは異なるものであるとしています。

4、ニーズの捉え方の混乱の原因について

5、アセスメントの混乱と原因について

混乱の原因

6、アセスメント

① ツールの使用 (いわゆるアセスメントシート)

アセスメントツールはそのプロセスを理解していれば(標準項目は必須ですが)基本的にどれを使っても問題はありません。

但し、シート活用による弊害がある事を意識する。

- 1、生活スキルの査定になり、事実関係の確認や利用者の抱える問題の抽出に力点を置いた面接になりがちとなる。
- 2、情報収集に追われると、クローズドクエスションの多様が起こりやすい。

② アセスメントは利用者と共に行うものです。

援助のプロセスで重要な事は、「問題を解決していくのは利用者本人」と認識したうえで、本人が問題を解決する力にしっかりと焦点をあてていく必要があります。

・問題は個人のものではない

利用者＝問題ではないと捉えます。

なぜか？→アセスメントの為に個人や環境を見る時、足りないものや弱さ、病理等に集中すると利用者や環境をラベリングして非難する事につながる。(病理理解は重要ですが、カテゴリ分けして見たり、人に問題があると理解しない)

・ストレングスの視点を持つ(人柄、特徴、価値、その人の持ち味はすべてであり、狭義の褒められる部分だけではなく、栃木弁が話せる、しぶとい、地域の関係性が良い等もストレングスです。

③ 利用者は能力を持っている人であると同時に何らかの一人では解決しがたい生活のしづらさを持つ人であるという理解が重要です。(能力と生活支障、あるいはプラス面とマイナス面など、両面をもつ存在である。両面ともに目を向ける必要があるが、マイナス面から生活課題(ニーズ)をとらえがちである。)

・アセスメントは「判断」を導き出す過程です。

④ 「のみ」(身体のみ、精神のみ、社会関係のみ)をとらえるのではなく、それぞれの関係性を理解しながら「身体機能・精神心理、社会環境的存在」として全人的に捉える事が重要です。

⑤ 専門職との連携

⑥ 出会いから終決までアセスメントは繰り返し行うものです。

(出会い→インテーク→アセスメント→プランニング→円滑導入の為に介入→サービス担当者会議→サービスの提供→モニタリング)

アセスメントのプロセス

情報収集⇔(仮説→情報の分析→情報の解釈)→ 情報の判断→伝達→ 生活ニーズ→ 解決すべき課題の望ましい目標・結果

文面にするとこのようになりますが、実践では(図1)のように利用者と共に進める場面と、ケアマネジャーがアセスメントプロセスを客観的に観察・分析しそれをアセスメントに反映させる場面の2つがあるといえます。

※第一にすることはサービスを位置付ける事ではなく、「利用者本人はどうしたいか」という視点がスタートです。

その際には利用者、家族の語っていただいた言葉が重要です。

聞き取りから 何か一つの問題点がわかったら、どうしてその問題が生じたのか？ 仮説を立てその問題について深く理解して共有できるように 関連情報を収集して仮説を検証していきます。

●何が利用者の問題(生活しづらさ)なのか？ 生活にいつ頃(現在)から、何が起こって困っているのか？

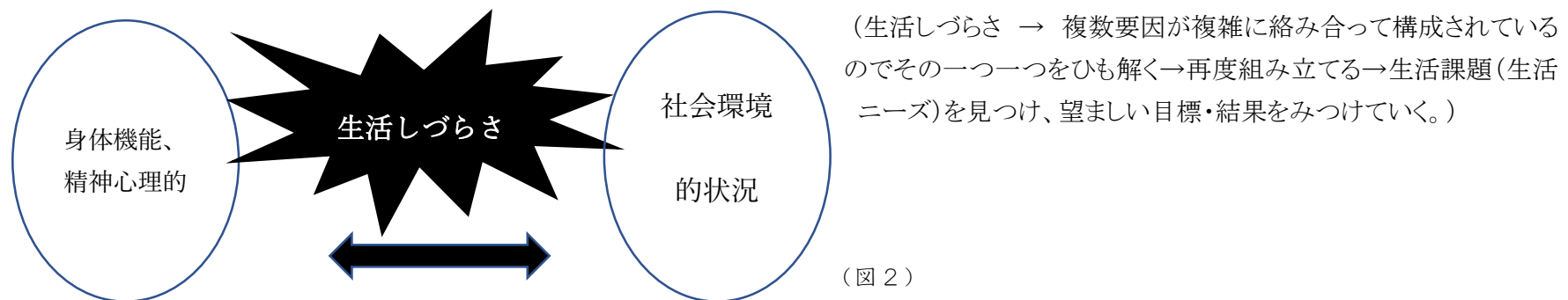
●以前はどうしていたのか？(過去)

●この問題をどうしたいのか？(未来)

現在 過去 未来の視点でなどなぜ問答を繰り返し探していく

生活ニーズはその人がこれまで歩んできた人生の歴史や家族との関係性、社会的立場、経済的な環境等に大きな影響を受ける。

また、今、関心を持っている事その時の心理状況等により容易に変化する。(生活ニーズは身体機能、精神心理的、社会環境的状况から起きています(図2))



○「生活のしづらさ」が生じている要因を探っていくにあたって・・・

利用者の要望(主観的情報)と健康状態や取り巻く環境等に関する客観的情報について裏付けをしながら専門的見地で整理、分析して検討をしていきます。

利用者や家族が抱える問題は、一見似たような問題であっても ①本人を取り巻く環境 ②その人の性格や問題への対応能力などによって要因は様々です。

情報を収集する際は問題の表面を見るだけでなく、その背景にある見えない部分を探る視点が重要です。

「生活課題の抽出」「生活課題とする根拠と支援の方向性を検討する」ことはアセスメントの核となる部分であり、収集した情報のもっている意味の分析・解釈についての妥当性は、生活課題の根拠となります。

今回、表出された現象はその人の一部分ではあるが、本人の生活歴や価値観、選んだ生き方があり、個別的な支援を行うためには、利用者の全体像をとらえるプロセスを踏んだ上で、支援の方向性を判断することが大切です。

アセスメントプロセスモデル

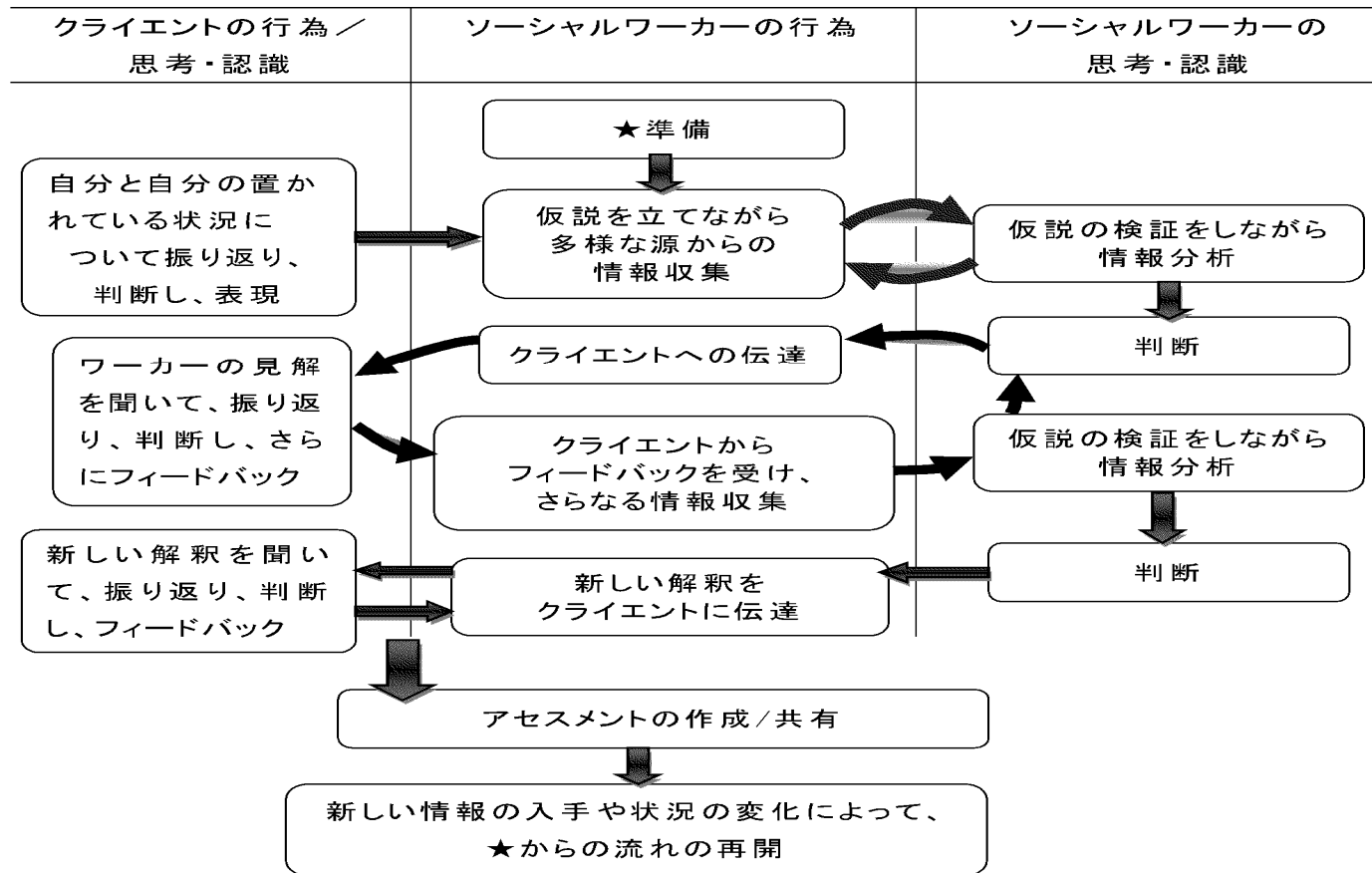


図 1. アセスメントプロセスモデル

アセスメントプロセスモデル(ソーシャルワークアセスメントスキル 大谷京子 中央法規より引用)

7、生活ニーズの考え方

狭義のニーズ、広義のニーズという考え方

生活ニーズはソーシャルワークで捉えられてきた「福祉ニーズ」と類似しているとされます。

福祉ニーズは「人間が社会生活を営むために欠かすことのできない基本的要件を欠く状態」としています。(三浦文夫)

- 1、生活全般の解決すべき課題(ニーズ) ☞ 狭義のニーズ
- 2、目標(長期目標・短期目標)

広義のニーズ

生活ニーズは利用者と社会環境との間で生じている問題や課題状況を整理・分析することから生活ニーズを明確にしていきます。

居宅サービス計画書(2)									
利用者の氏名		性別		生年月日		作成年月日		年 月	
生活全般の解決すべき課題(ニーズ)		目標		サービス内容		サービス提供		備考	
		長期目標	短期目標	サービス内容	サービス提供	サービス提供	サービス提供	サービス提供	備考

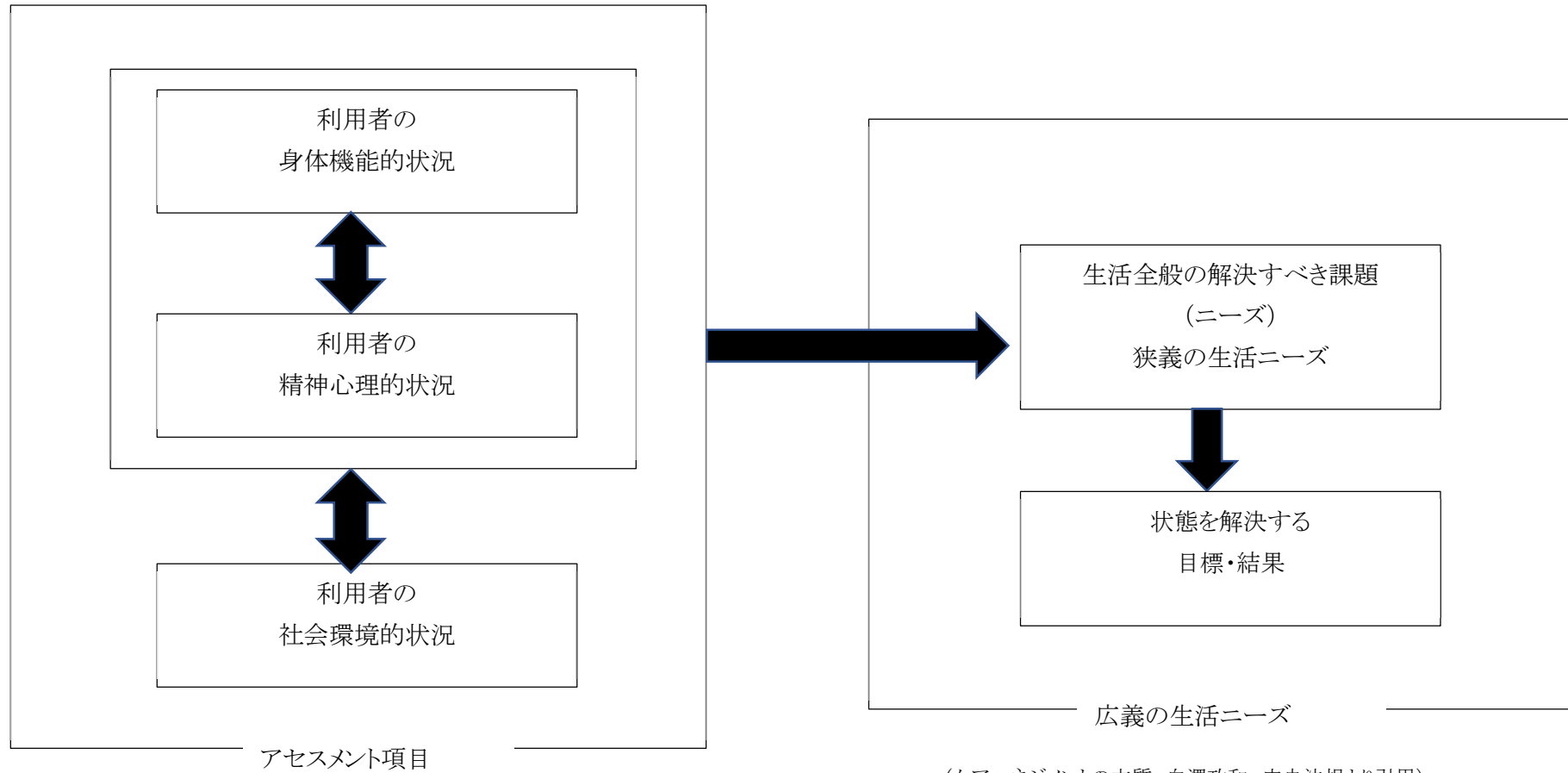
※1 「保険給付の対象となるかどうかの区分」について、保険給付対象内サービスについては○印を付す。
 ※2 「当該サービス提供を行う事業所」について記入する。

→アセスメントでの個人の心身機能的状態、精神心理的状态、社会環境的状态について利用者と一緒に理解・整理し、そこから「社会生活を遂行するのに困っている状態(生活しづらさ)と次に「その状態を解決する(維持する)目標・結果」を導きだしていきます。

ケアマネジメントがとらえる生活ニーズ

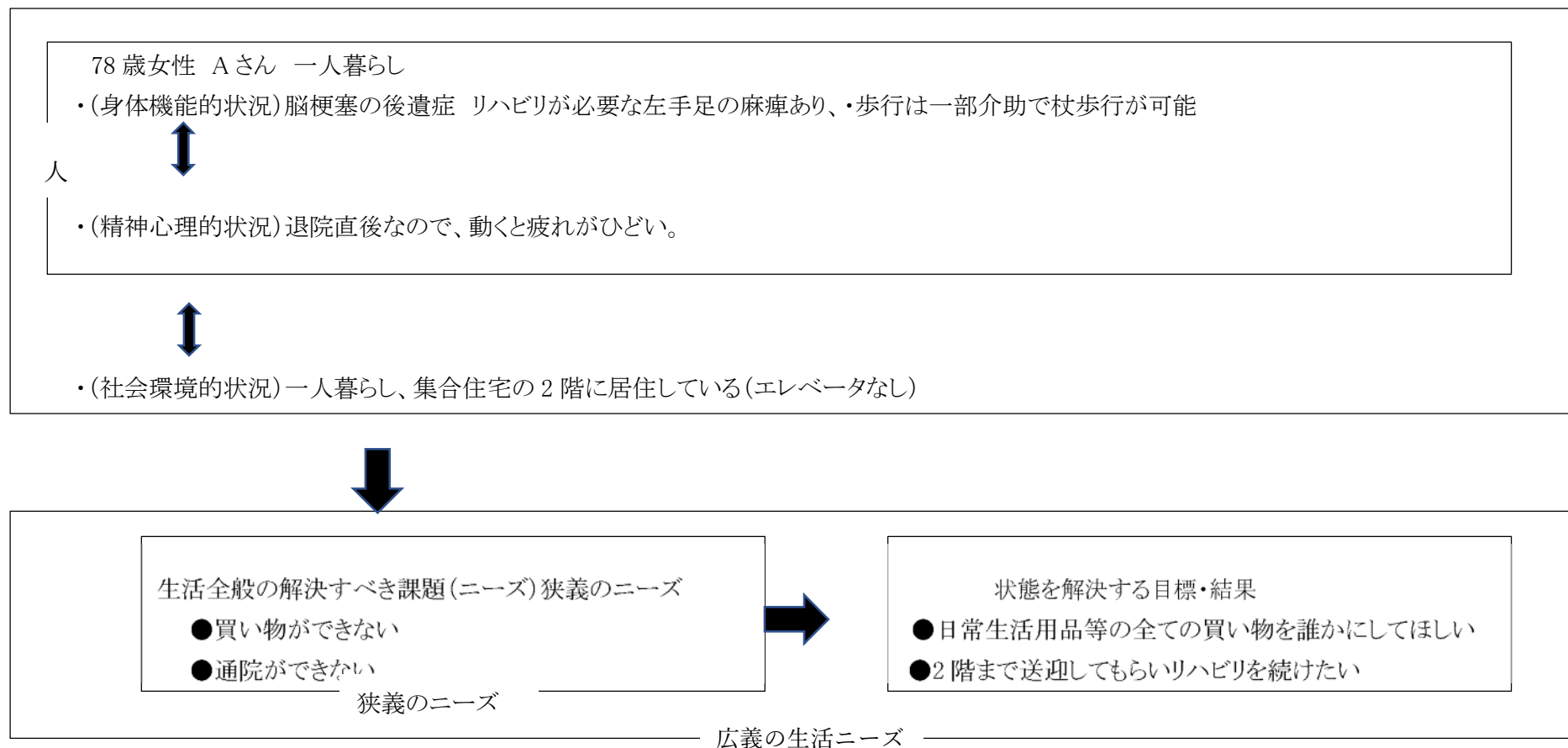
アセスメントでの個人の身体機能的状況・精神心理的状況、社会環境的状況について利用者と一緒に理解し、そして整理していく事で、①「生活を遂行するのに困っている状態」 ②その状態を解決する(維持する)目標・結果」を共有していきます。

アセスメント項目からの生活ニーズの捉えかた(図3)



(ケアマネジメントの本質 白澤政和 中央法規より引用)

事例0



このことからわかるように生活ニーズは利用者の身体機能的状況・精神心理的状況・社会環境的状況が関連しあい生じている。
このことは、身体機能的状況が変わらなくても、精神心理的状況や社会環境的状況にわずかな変化があれば生活ニーズは異なっていくことになります。

事例1 Cさん 81歳男性 80歳の妻と2人暮らし

(身体機能的状況) 洗髪・洗身に一部介助が必要

(精神心理的状況) 自分が建てた家に誇りがある

(社会環境的状況) 介護者 Bさんは高齢であり腰痛がある。

生活全般の解決すべき課題(ニーズ)狭義のニーズ

-
-



状態を解決する目標・結果

-
-

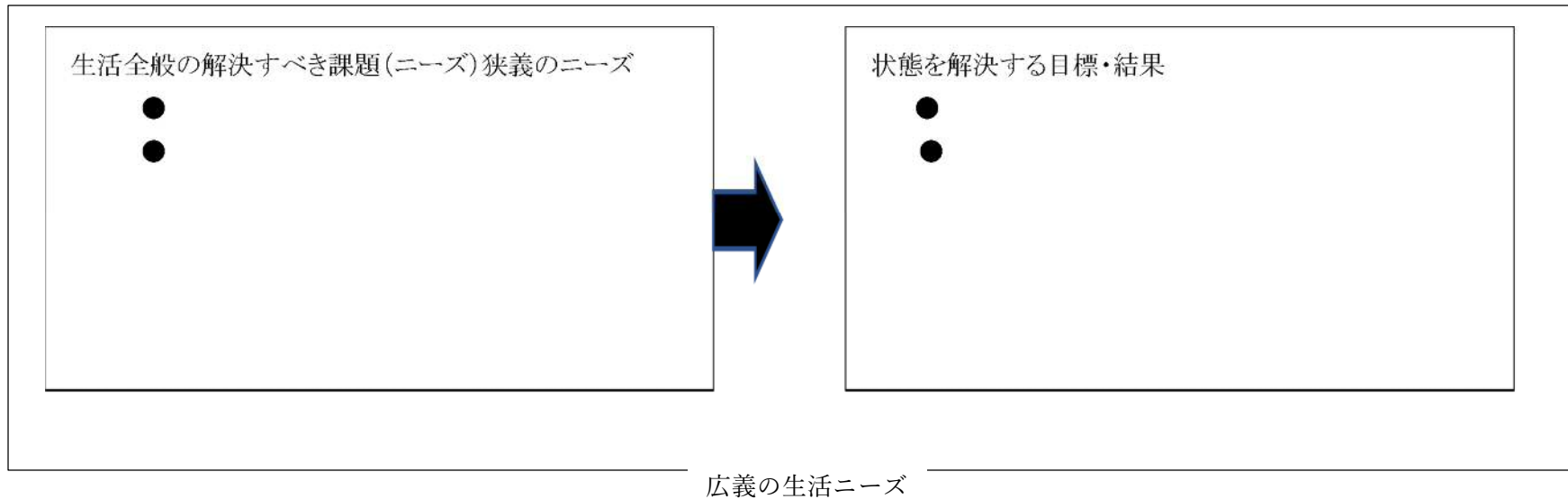
—— 広義の生活ニーズ ——

事例2 Gさん 79歳 男性 一人暮らし

(身体機能的状況) 脳梗塞の既往がある。右下肢に軽度麻痺あり杖歩行。高血圧症 降圧剤を服用

(精神心理的状況)

(社会環境的状況) 一人暮らしである。電話がない。



アセスメントの進め方

- 1、何が利用者の問題なのか？（本人が述べた言葉）家族が不安に感じている事（主観的情報）と利用者の健康状態、利用者や家族を取巻く環境など（標準項目は必須です）

「どのような事が一番気になっておられますか？」「どんな心配がありますか？」等と問いかけることで、自身が何を問題としているかがわかります。

☞ 先ずは、ご本人の言葉で語る「問題」に耳を傾けます。面接をしていくうちにご本人が語った「問題」が真の問題でない事に気づかれる場合もあるかもしれません。

利用者家族の主観的情報は時間の経過や、サービスの導入等環境の変化により容易に変化します（今の状態をあるがままに受けいれます）

- 2、語られた「問題」について、シート(D)社会生活を遂行するのに困っている状態（生活しづらさ）であると仮定し、**仮説を立てて**いきます。（シート(B)）へ仮説を記入します。（できるだけ たくさんの仮説を立てます）

（ここでは、利用者から語られた事をケアマネジャーが受け止め、解釈し、理解し、それを深める為に利用者へ投げかけ、共有していきながら共に作り上げるプロセス）

- 3、語られた情報から、仮説を立て、仮説を検証するために標準項目とその他の情報の収集をしていきます。仮説に合わせて質問し言語、非言語の情報の矛盾点、情報と情報の比較検討、つなぎ合わせを繰り返し行います。

現地確認、専門職からの情報等、医師の意見書等の情報も活用します。

- 4、情報と仮説を検証し、一致しない（根拠がない）仮説は消去（見え消し）しつつ、更に必要な情報はなにか？を考えながら、利用者へ伝え、確認（伝える）することは何か？を判断します。

（根拠のない仮説は妄想にすぎません）

ケアマネジャーと利用者の判断は重要な要素であり、判断は価値と知識、そしてクライアントの意思で規定される(山辺 2011). とされており、ここでの判断とは、選択をするプロセスであり、選択のために決定状況について熟考することを言います。

直感的な決断もソーシャルワークにおいては重要ですが、それは経験を通して蓄積された専門知を基礎としたもので、考えなしの反応とは異なります。

5、社会生活を遂行するのに困っている状態(生活しづらさ)と、その背景要因について「私はこのように理解しましたが如何ですか」と整理し確認します。(言語化)

6、利用者はケアマネジャーの整理した内容を受けて自らを振り返り、ケアマネジャーに説明します。

7、ケアマネジャーは利用者からの説明を受けて理解度の違いに気づけば「●●ということですね」と確認したりします。(言語化)

8、3～7を繰り返して仮説を検証し「そうです」となれば共有となります。シート(C) (A)による(B)仮説の検証結果に記入しておきます。(似たようなケースであると認知バイアスがかかって勝手に解釈してしまう事がありますので注意)

9、8で共有できた検証結果より、社会生活を遂行するのに困っている状態(生活しづらさ)を抽出して(D)社会生活を遂行するのに困っている状態(生活しづらさ)(問題)の表出と社会的必然性の一致の欄に記入します。(狭義のニーズ)

10、(E)欄に、(D)社会生活を遂行するのに困っている状態(生活しづらさ)(問題)の表出と社会的必然性の一致の欄に対して
→状態を解決する目標・結果(意向表出と社会的必然性の一致)を記載します。

上記2からの語られた「問題」以外にも専門職には顕在化(見えている)している問題(例えば、歩行が不安定な方にもかかわらず、物が散乱していたり、段差があつたり客観的に判断しての問題が見えている(顕在化)している場合があります。

このような場面では利用者、家族は転倒のリスクを感じていない事も多いので、一度言語化して確認しておきます。

また、金銭搾取や権利侵害、訪問販売等利用者や家族が問題と思っていない場合等、潜在化している問題にも注意が必要です。

演習

進め方

11、(演 習)

アセスメントのプロセスに沿って紙上事例により考える。(進め方)

使用するもの

(基本情報)

(事例概要)

(思考支援シート)

1、基本情報の読み込みこんでください。**(詳細情報は見ないでください)**

2、【本人・家族の意向】から思考支援シートの「(B)それはもしかしたら〇〇なのだからかも知れない？(D)につながる仮説」の欄に仮説をできるだけ沢山書き入れます。

(仮説) Cさんは介助が受けられず入浴ができていないのではないかな

(仮説) 〇〇なので△になっているのではないかな？

(仮説) □□なのではないかな？

(仮説) 援助してくれる家族がいないのではないかな？

(仮説) 介護者が怪我をしているために入浴介助を受ける事ができないのではないかな？

3、2で書いた仮説を「(A)と照合し、あなたが立てた**仮説**を実証する根拠となる情報を収集していきます(検証)

①すでに収集した数ある情報と新たな情報を結びつけて、あなたの仮説を検証していきます。

それはなぜ起きているのか？いないのか？

(生活しづらさ → 複数要因が複雑に絡み合っている構成されているのでその一つ一つをひも解く→再度組み立てる→生活課題(生活ニーズ)を見つけ、望ましい目標・結果をみつけていく。)

・生活ニーズは利用者と社会環境との間で生じている問題や課題状況を整理・分析することから生活ニーズを明確にしていきます。
→アセスメントでの個人の心身機能的状態、精神心理的状态、社会環境的状态について利用者と一緒に理解・整理し、そこから「社会生活を遂行するのに困っている状態(生活しづらさ)と次に「その状態を解決する(維持する)目標・結果」を導きだしていきます。

・仮説を実証する為に足りない情報はなんですか？

→本来ならば、ご本人に確認し、社会環境的状态を確認する事が大切です。

仮説にバイアスがかかっていませんか？これを防ぐのはできませんから、必ず実証には確認が必要となります。

- (1) 目的は何かを常に意識する事。
- (2) 自他に思考のクセがあることを前提に考える。
- (3) 問い続ける
(だから何なの？ その意味は？)、(なぜ？)、(本当に？) の3つ

② 仮説が証明できないものは横線を引いて消去(後で確認できる様に見え消し)します。

4、(C) 仮説の検証結果欄に仮説を実証できたもの(事実とその背景)を書き入れます。(言語化)

例:Aさんは、洗髪、洗身に一部介助が必要であるが、介護者が高齢で腰痛があり介助がつかなく結果として入浴できていない

視点 :洗髪・洗身が一部介助という情報から新たな仮説が生まれてくれば(引っかかれば)仮説の欄に記載し、検証します。

同様に、一部介助や介護者が腰痛でつらいという情報からの(引っかかり)はありますか？

妄想が膨らめば仮説欄に記載し検証していきます。

① (C)欄は(B)欄の あなたの立てた仮説を証明する情報をつなぎ合わせたもの、事実とそのいわゆる「背景」にあたるものが記入されます。

仮説に対して整合性チェックはできましたか？

※問題は利用者と社会環境との間で生じている

個人の心身機能的状態、精神心理的状态、社会環境的状态について理解・整理することが大切ですので意識しましょう。

②ご本人、家族に背景も含めて ●●で□△であり、○○のため生活をしていくのに困っているという事で理解してよろしいですかと確認します。

「そうです」という事であれば③へ進みますが、ノンバーバルも含めて「ちがう」という事であれば再度検証(情報収集)をします。

③ ②をどのようにしていきたいか(状態を解決する目標・結果(意向)を確認しておきます。

④ 整合性の確認が取れば、(B)欄の(仮説)の部分を消します。(事実になります)

5、(D)生活をする上で困った状態(問題)欄に記入します。

6、(E)(D)生活をする上で困った状態(問題)に対して状態を解決する目標・結果(意向)欄に上記 4-③で確認した(状態を解決する目標・結果(意向)を記入します。